

3度目Vは大苦戦

最終18番で後輩を逆転

通算7アンダー273

日大3年・出利葉太一郎（筑紫ヶ丘）



いくら苦戦しても、負けないというのは強い証拠だ。出利葉が一段と成長した姿を披露した。大会2日目に65をマークして首位に立つと、3日目は夜須高原CCのアマチュアのコースレコードタイとなる64。1人だけ2桁の10アンダーとして、2位に6打も差をつける。アマチュアの中にプロがいる感じであった。プレーの内容から見れば、つけ入る隙のないゴルフを展開。楽勝でフィニッシュすると思われた。

ところが、ゴルフは分からない。最終日は3日目までと違う出利葉がいた。1、2番の連続ボギーで始まり、アウトは1バーディー、3ボギーの37。2位の沖学園高の後輩・田崎とは3打差に縮まった。そして16番ショートではバーディーの田崎に対して、出利葉は今

大会初の3パットのボギーで一気にひっくり返された。「田崎君はいいゴルフをしていたし、流れは彼かな、と。でも、最後まで分からない……」。自信のない中で迎えた最終18番。2人とも第1打を右に曲げて、第2打はともにつま先上りの斜面から。先に田崎がグリーンオーバーし、出利葉はピン下2mにつけた。「ピンまで142ヤード。木も邪魔にならないし、フォロースルーも取れた。ラッキー。ミラクルショットでしたね」とPWのショットを自画自賛した。田崎はアプローチを5mオーバーして、返しも入らずにボギー。そして、出利葉が2年ぶり3度目となる逆転のバーディーパットを決め、ガッツポーズも出た。

「苦しい展開でした。3日目同様ドライバーはいいんですが、アイアンが飛びすぎるんです。『ついたな』と思っても5~6mもオーバーしてるんです。ドライバーが飛ぶようになってアイアンも飛ぶように。今日は難しいゴルフでした。いい経験になりました」

今大会、4日間とも同じアイアンを使用。出利葉本人が感じていたより飛距離が伸びていたのだが、最終日にスコアを崩したのは気持ちの面もあったのかもしれない。とは言っても、勝った。3日目までの貯金も大きかったが、とにかく踏ん張った。



6月28日からは悔しさを晴らすための日本アマ。昨年は第4ラウンドが悪コンディションのために中止。2位につけていた出利葉は最終日に逆転を狙ったが、雨とともに日本一は消えた。「リベンジしたい。優勝を目標に」と狙いは1つしかない。「憧れを持たれる選手になりたい」と出利葉は尊敬する人にメジャーで活躍するエンゼルスの大谷翔平を挙げる。世界の前に日本というタイトル獲得だ。

○…昨年続き、またしてもシルバーメダリストになった。昨年はプレーオフ、そして今年には16番でトップに躍り出たものの、最終18番で逆転された。18番のティーショットは出利葉同様に右斜面。ピンまで180ヤード。田崎は「ボールの後ろに芝はなく、フライヤーはしない」と読んで7番アイアンを振り抜いたのだが、ボールは思った以上に飛んで奥にこぼれた。アプローチが5mオーバーし、返しのパーパットも入らない。その直後に出利葉がバーディーパットを沈めて戦いは終わった。「太一郎さんは調子が良くなく、追いつくことだけを考えて、しっかりパーを取っていこう。(バーディーを)取れる所は取って」と17番までは3バーディー、ノーボギーと計算通りに運んでいただけに最終ホールが悔やまれる。「6打差を一度は追いついたし、自信になります」と言いながらも「あと一歩が遠かったですね」と田崎は唇を囁んだ。



最後にドラマが待ち受けた谷越えの18番ミドル（416ヤード）